

所属・氏名（健康科学部 心理学科 氏名：清水 健司）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (発表) Effect of brief mindfulness meditation on mental health of undergraduate students.	共著	令和 2 年 1 月	2020 The Hawaii International Conference on Education	(概要) 簡便なマインドフルネストレーニング効果について効果検証を行った。その結果、ごく短期間のトレーニングであっても一定の精神的健康維持効果がみられることが示唆された。 (著者) Shimizu, K & Shimizu, H (担当部分の概要) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (発表) マインドフルネス瞑想が社交 不安に及ぼす影響	共著	令和元年 9 月	日本心理学会第 83 回大会 (於:立命館 大学大阪いばらきキ ャンパス)	(概要) 社交不安が高い人々に対して、マインドフルネス トレーニングの有効性を検討した。その結果、ト レーニング群にて、実施後に有意な社交不安の低 減効果が見られた。ただし、効果の維持には問 題が残されていた。 (著者) 清水健司・清水寿代 (担当部分の概要) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (報告) 森田療法における作用メカニ ズムの解明と心理学的介入法 の効果検証(2)	共著	平成 31 年 3 月	公益財団法人 メン タルヘルス岡本記 念財団 2018 年度 研究助成報告集 第 30 号	(概要) 森田神経質を持つ人々においては、失敗を経験 したのち、アクセプタンス対処による自己教示を 用いることが自信の回復に資することが示され た。 (該当ページ数 Pp.39-44.) (著者) 清水健司・清水寿代 (担当部分の概要) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (発表) 失敗経験後の森田神経質者 における有効な自己教示的対 処	共著	平成 30 年 9 月	日本教育心理学会 第 60 回総会 (於:慶應義塾大学)	(概要) 森田神経質が高い人々が失敗を経験した後 には、不安の統制的な自己教示ではなく、あるが ままの態度を体現するアクセプタンス自己教示が 有効であることが示された。 (該当ページ p.322) (著者) 清水健司・清水寿代 (担当部分の概要) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (論文) 思考抑制と曖昧さ耐性が強迫 傾向に及ぼす影響 《筆頭論文》	共著	平成 29 年 3 月	信州大学人文科学 論集 4 号	(概要) 強迫性障害の一般的傾向としての強迫傾向の 増減要因の検討を行った。その結果、思考抑制 を頻繁に行い、曖昧さを許容できないパーソナ リティを持つことが増強要因になることが示され た。 (該当ページ数 Pp.103-112.) (著者) 清水健司・清水寿代 (担当部分の概要) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能